

# 富士ソフトテニス協会50年のあゆみ

富士ソフトテニス協会創立50年にあたり、富士市体協10周年誌、30周年誌・県連50周年誌に掲載されなかったことにも触れながら30周年以降を振り返りたいと思います。

## ◇発足

昭和41年11月1日の富士、吉原、鷹岡の二市一町の合併に伴い、軟式庭球協会の統合に向けて合併前から準備を進め、(旧)富士市側からは(故)花崎春雄氏、遠藤幸司氏、川口伸治氏、(旧)吉原市側からは(故)佐野茂雄氏、小林大八郎氏、(故)佐野洋三郎氏、渡辺一氏がそれぞれ富士市の図書館でたびたび会議して問題を調整し発足に至りました。

## ◇市内大会コートの変遷

当初は吉原高校のテニスコートが中心で行われていましたが、昭和49年に厚原浄水場にコート(6面)ができ、昭和59年に総合運動公園に現在のテニス場(6面、後に8面)ができ、会場も変わってきました。また、石井組が管理していた白銅コート(現在は無い)なども使用しました。

中学生の大会には吉原二中や吉原北中、鷹岡中、富士南中、田子浦中なども使用していましたが、協会傘下のクラブの練習場確保の意味も含めて、平成8年に中島康治氏の浄財寄付や協会の寄付により当協会主導で雁がね堤に6面の岩松中コートが整備されてからは岩松中が軸になって開催しています。

平成20年に旧富士川町と合併してからは、富士川河川敷スポーツ広場のコート(4面)も愛好者大会等で利用しています。

これ以外にも昭和40年代に小林製作所(当時、野村裕和氏が協会会計担当)が富士宮朝霧グリーンパークを開園した際、その中にテニスコート(4面)が作られ、数年間、周辺クラブを招待し、団体戦を行ったりしました。山川工業(現ユニプレス)も茶ノ木平にテニスコート6面を造成し、大会を開催しましたがすぐに住宅地になってしまい、記憶している人も少ないと思います。

その他、協会員の練習用コートとして中学校や高校のコートを利用させていただいています。

## ◇テニス教室について

底辺拡大を図る為に昭和45年に(故)佐野洋三郎氏が県内で先陣を切って、当時吉原二中の教頭をしていた(故)佐野茂雄氏の協力を得て、吉原二中の体育館で始めました。その後、人数も増え手狭になってきたのと富士中に夜間照明ができたのに伴い、こちらに移りました。市体協の委託テニス教室として総合運動公園にできた勤労者体育館(現富士体育センター)に変わり、加藤博氏や佐藤昇一氏らが中心となり行ってきましたが、夏は室内でとても暑かったのを覚えています。その後、富士高のテニスコートに夜間照明ができ、当初あまり明るくありませんでしたが中島康治氏(現協会顧問)に照明灯を寄贈して頂いたのと、当時石川延房氏が教鞭をとられていたので便宜を図って頂き、総合運動公園にテニス場が出来るまで使用させていただきました。そして総合運動公園にテニス場が出来てからは現在に至っています。

また、協会としては中学生の選手育成のために年に4～5回強化練習を計画し、行ってきています。併せて中学生の技術向上を目的に夏季研修大会(団体戦)や冬季研修大会(個人戦)を開催しております。

テニス教室から同好の仲間でクラブ組織に発展したのは岳南クラブ(現在は消滅)やクレソクラブ(退会)、駿河クラブ等のクラブや理容関係者が中心の富士クラブ(現在は消滅)が発足しております。

毎年4月から毎週月曜日で13回(予備3日)の教室ですが、終了後も続けたい人達が9月から3月ま

で同好会という形で10年近く継続しています。また、参加する人達はここ数年、圧倒的に小学生が増えてきています。

現在では中級クラス、初心者クラスに分かれて指導しています。教室出身者などの大会参加機会をつくるために愛好者大会を春秋2回開催しています。

テニス教室以外でも市のスポーツ振興課の主催で厚原のテニスコートで数年教室を開き、杉山登子氏、鈴木桂子氏、(故)斉藤憲雄氏(当時協会理事長)らがコーチ陣として育成を担いました。当時の生徒たちの中には現在もそれぞれ協会内のクラブに加入して頑張っている人達もいます。

#### ◇ジュニアの育成について

ジュニア育成は昭和60年に(故)佐野洋三郎氏の指導で始まりました。当時は県でもまだ今の様に始めていませんでした。その後、富士ジュニアクラブとして(故)矢野恒彦氏を中心に深沢利昭氏、鈴木芳治氏らがコーチ陣として育成に努め、多くの選手を輩出してきました。今ではジュニア出身者がコーチとなり後輩たちを育てています。また、新たに渡瀬義正氏が富岳ジュニアを立ち上げて選手の育成に努めています。日置至誠氏も自宅にテニスコートを作り、Fuji Tennix を立ち上げ一般から小学生までの総合クラブとして選手育成と普及に努めています。旧富士川町でも望月章夫氏が中心になり富士川ジュニアクラブ(旧富士川ソフトテニススポーツ少年団)を平成7年に立ち上げ、数多くの優秀な選手を輩出しています。

ジュニア出身者や富士市の中学校出身の中には中学、高校でも主力を担って活躍し、卒業後も大学や一般で活躍している人が多数います。

特に顕著な出身選手は、深沢明恵さんです。平成21年に高校2年生(鷹岡中→広島翔洋高校)で皇后杯3位、平成24年には優勝し、現在も東芝姫路に所属して日本ナショナルチームに選出されています。

その他スーパー中学生と言われた望月友美佳・楠えりかペア。平成21年に岩松中学3年生の時に中学生東海大会優勝、一般の静岡県選手権大会で優勝、全日本中学選手権出場、また中学生で国体少女(居並ぶ高校生を総なめにして)に出場しました。楠えりかさん(岩松中→和歌山信愛)は全国高校選手権大会(インターハイ)で8本に入賞しています。望月友美佳さんは毎年国体静岡メンバーの常連で、今年的全日本大学選手権(インカレ)でシングルス3位に入りました。望月・楠ペアは一般でも県の国体選手として一般女子をリードしています。

富岳ジュニア出身の吉田悠人君(富士中→富士宮北高)はインターハイで8本に入っています。中央大学卒業後は静岡に戻り一般男子で活躍し、平成27年の和歌山国体では中心となり8本に入賞しました。

同級生の新村涼君(大淵中→富士宮北高)は山梨県の都留文化大在学中に個人及びシングルスでチャンピオンになっております。彼も静岡県に戻ってきており、これからの活躍が期待されます。

平成26年全日本中学生選手権大会でベスト16本に入った前嶋夏季・佐野里海ペア。佐野里海さん(岳陽中→加藤学園)は一年生ながら県総体で優勝しています。その他に中体連全国大会に出場した大淵中男子(団体H11年)、須津中男子(団体H26年)、個人戦では吉田・渡瀬ペア(富士中H17年)、大島・秋山ペア(大淵中H17年)、望月・佐藤ペア(須津中H26年)など多くのジュニア出身者や中学校出身者が活躍しています。

#### ◇海外交流について

海外交流については静岡県ソフトテニス連盟の理事長であった(故)西ヶ谷嘉津次氏を団長として富士市からも遠藤茂子氏や(故)大高清氏などが参加していましたが、昭和63年のソウルオリンピックの年の韓国親善交流に富士ソフトテニス協会の人達も多く参加し、中・高校生や引率の先生一般の選手合わせて総勢30人余の選手団で訪韓しました。平成14年に松永紹夫氏を団長として中・高校生を連れて遠征親善試合が最後にな

り、その後静岡県と韓国との交流が断ち切れていていましたが、最近復活してきたようです。こうした遠征があれば中・高校生の励みになると思います。

また、平成26年シニアクラスで訪韓し、親善交流試合を行ってきました。平成27年は40数名が来静し、富士宮と静岡で親善交流の大会を行いました。平成元年には北京アジア大会で日本の応援に中国を訪れた際、北京体育大学のソフトテニス関係者と歓談しました。平成2年には前年に来富したブラジル選手との関係から(故)西ヶ谷団長以下、富士から(故)大高清氏、遠藤茂子氏、松永紹夫氏等が参加しました。その後もナガセケンコーの大野美紗子前監督、高橋園枝(ナガセケンコー・皇后杯優勝者)とともに普及に努めました。

ドミニカ共和国には平成6年にやはり(故)西ヶ谷氏と共に(故)大高清氏、遠藤茂子氏、蒔田求氏、田島正保氏、松永紹夫氏らが訪問しています。また、平成12年には日連の西村副会長と共に日置至誠氏、(故)橋本昌治氏、松永紹夫氏等が参加しています。また、中島康治氏が団長で富士のメンバー中心に中華民国に親善のため遠征しています。

以上のように親善先はインドネシア、韓国、中華民国、中華人民共和国、ブラジル、ドミニカ、ベネズエラなどの諸国に亘り国際交流親善とソフトテニスの普及に努めております。

#### ◇加盟クラブの変遷

昭和51年の10周年の頃は製紙、自動車関係、製薬化学関係の企業クラブが17団体、市民クラブが吉原クラブ、富士クラブ、岳南クラブの3クラブでした。

平成7年の30周年の頃は加盟18団体中企業団体が9団体に減少、市民団体は9クラブに伸張しました。これはバブル崩壊後企業経営も厳しくなり福利厚生への出費が限られてきたことに由来する企業団体クラブの減少に伴い、ソフトテニス愛好家達が市民クラブ結成に向けて努力された結果と思われます。これには体協主催の初心者教室も貢献しています。この流れはさらに増し、現在加盟17団体の内企業クラブは東芝キヤリヤ、ジャトコ、市役所の3クラブのみとなり別組織で中途半端な立場にあったジュニアクラブが新たに3クラブ加盟しました。一般の市民クラブも高齢化と新入部員の取り込みに伸び悩んでいます。富士軟庭会、湧水クラブ、tokky'sのような若い世代のクラブが増えてくれることを期待しています。

#### ◇大会参加者の減少

昭和60年頃は市スポーツ祭や富士選手権大会の参加者は一般でも50～60ペアの参加がありました。他の大会も同様ですが年々減少してきています。これは高校生の参加が無くなったことも大きな原因のひとつですが成年・シニア層の参加も減少していること、また女性の参加者が少ないことが問題とされています。協会でも如何にして参加者を増やすかを(大会方法や内容等)真剣に話し合う必要があると認識しています。

## 今後に向けて

この50年の間、ジュニアから中学生の目覚ましい成長で、県内、東海、全国へと活躍がなされ、県下でも富士市出身の選手が他を引っ張っている感があります。

この流れを一般につながっていくことを期待し、力を持った一般の選手が富士市に戻り活躍できる環境、集まって練習できる場所、仲間づくりを考え、若い人たちも色々な面で参加できる協会に発展していきたいと思います。

それに伴い大会にも若者からシニアまで、初心者から愛好者までもが参加しやすい大会づくりを心掛け、底辺の拡大を図ると共に、年齢の高い人は3人制の大会等、参加して楽しい種目も用意して盛り上げていきたいと考えます。

底辺の拡大においては、ソフトテニス教室に参加した子供とその親を引き上げられる工夫。昼間に教室を開き、ママさんやリタイアした人たちが活動できる環境を築くこと。また、県内外大会で活躍できる選手を目指していけるクラブや指導者の育成なども整えていきたいと思います。

また、近頃では多くの協会、連盟等がホームページを立ち上げて広く情報を提供しています。富士ソフトテニス協会としてもホームページを立ち上げられる状況を作り、活動、大会案内、結果等を外に発信できるようになればと考え、検討していきたいと思います。こうした活動が窓口となり開かれた組織として底辺の拡大につながれば良いと思います。

これから若い人たちに引継ぎし、より楽しい充実した協会になることを希望し、期待しております。

富士ソフトテニス協会  
理事長 佐野 浩一

飛躍  
飛躍